

図書館情報学橋会会報 第5号(通号11号)

2007年11月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

本年3月、筑波大学図書館情報メディア研究科では1名の定年退職教員を迎えた。退職された先生は、椎名 健教授で、先生は図書館情報大学に教員として赴任され、筑波大学との統合後も引き続き教鞭を取られ、永年にわたり、薫陶を受けた学生も多い。退職後の生活などについて原稿をお願いした。

日 々 好 日

椎名 健 元筑波大学図書館情報メディア研究科教授

今春退職して浪人生活が始まった。昨年暮れ、自宅から二百歩の所に一反の畑を借りた。畑仕事はいい汗がかける。一風呂浴びて朝食のテーブルにつくと至福の時を感じる。夕方もう一度、至福の時がある。浪人生活は順調な滑り出しである。

六月に指導教授の誕生パーティをしようと、留学時代の仲間がメールをしてきた。日取りが決まり、会場はペンシルバニア州立大学内にある由緒あるホテルだ。空港はステイトカレッジで文字通り大学町である。直行便がないので、先にエリー市の友人を訪ねることにした。その日は駆け足でやってきた。デトロイト経由でエリーに飛んだ。到着すると友人がビッグ・ハグで迎えてくれた。

エリー湖畔に新築された瀟洒な家屋、素人が趣味で建て、その男は丘の上に別の家を建てたので不要になり売ってくれたという。裏庭は七五歩で波に洗われた急峻な崖に至る。一本の大木が足下をすくわれた格好で岸壁に根っこを張り、こちらに傾いている。その木は隣家に所属するが、もし倒れたら、その先には友人宅の二本の大木がある。そんな心配を隣家の女主人と立ち話をしていた。彼女は二年前に夫を亡くして、今は一人暮らし。ちょうど息子が立木のトリミングに来ていた。

友人宅は木造二階建ての7LDK、アメリカの家としては並であろう。一階のダイニングがこの家のベストスポットであった。みず

うみに向かって突き出た三方がガラス窓の明るい部屋である。そこに置いた円卓が食事やお茶の席となり、また、バードウォッチングのスポットである。四、五メートルのところに支柱を二本立ててフィーダー（餌）が吊されている。二つのフィーダーのついでみ穴が異なるため別の種類の小鳥たちが集まって来る。また、芝で覆われた地面には野ウサギや子リスが遊んでいる。最後の愛犬が老死して、バードウォッチングになった。あれはブルージェイ、ほらブルージェイが来たと夫婦の会話が絶えない。

彼らが生まれ故郷のエリーに戻った理由は、趣味であるクルージングのためである。五キロ先のヨットハーバーに、自分のヨットを停泊している。彼は近くの大学で情報学を教え、彼女はエリーに来るために小学校教師を自主退職した。熱心なカトリックで、ハリケーンに洗われたニューオリンズの清掃にも行った。彼と私はペン州大のある授業で知己となり、家族ぐるみのつきあいになった。

その友人が五時間以上かかるステイトカレッジに車で送るといふ。ワシントンDCで働く長男が家を買ったので、引っ越しを手伝いに行く用事を合わせてくれていた。

老教授の誕生パーティは家族と弟子たち三〇人を集め、二泊三日続いた。これはまた別の機会に置くとして、二週間後帰宅して見た畑は雑草の場と化していた。それでもいい汗をかきながら、再び畑らしくなってきた。

「橘の樹」 - - - 黒岩先生からの手紙 - - -

本誌第3号(2006年3月発行)の特集記事「橘会 ホームページを華麗にリニューアル」記事中、本同窓会橘会の象徴である『橘の樹』の由来を紹介した部分に関して、図書館情報大学の元教授 黒岩 高明先生から、詳細な訂正の手紙が本誌編集部に届けられました。図書館養成所を卒業され、図書館短大、図書館情報大学で教鞭をとられた、いわば、図書館情報大学の生き字引のような大先達からの貴重なご指摘です。母校愛あふれる文章とご好意に感謝と敬意を表し、先生のご了解の下に、全文を御紹介することとしました。

先生の文中、下馬キャンパスには橘の樹はなく、あったのは夏蜜柑の木で、筑波キャンパスに移植されたのも夏蜜柑だったとありますが、実際、現在、図書館情報学群の春日キャンパスの中庭には橘の木が植えられており、毎年白い花を咲かせ、黄色い実をつけています。この点に関し、黒岩先生も、僕の勘違いもあるかもしれないので、是非、同窓生の方々に広く情報を提供してもらいたいと、皆さんに呼びかけておられます。連絡先は、橘会ホームページのメールアドレス、又は橘会事務局住所へどうぞ。

「橘の樹」のもつ、薫りととこしえの緑が、図書館の文化と同窓生の変わらぬ友情を象徴していることだけは、間違いないようです。

橘は 実さえ 花さえ その葉さえ 枝に霜降れど いや常葉の樹 (万葉集 巻六)

橘会会報三号、ありがとうございます。一寸と気になる内容があり、ペンをとります。

「タイトルバーがブルーの訳」の最後の段です。事実と違った風説的内容になっています。風説が正史になることを恐れます。上野の養成所校庭に橘の樹はありませんでした。もちろん、上野から下馬に橘を移植した事実もありません。

同窓会が「橘会」の名称をとった経緯をお知らせします。養成所から短大になったとき、文部省図書館職員養成所同窓会(長いですね)の会長は弥吉光長さんで、事務を預かっていたのは私でした。短大第1期生が2年になった頃、同窓会役員の一部から、短大卒業生は養成所同窓会会員になるのが当然で、卒業の時に終身会費を徴収したい旨の申し出がありました。

「待ってください、養成所同窓会に合併するのかが否かは短大生達が決めることではないですか。彼らの意見を聞かずに事を決めるわけにはいきません。」と異を唱えました。その後、役員会で、同窓会会則案を作成し、短大学生自治会で検討してもらい、若干修正されました。そして、会の名称は短大生から案を募り、「橘会」となり、第2回学生文化祭の折に、同窓会会長より発表してもらいました。それより前に、校章を設定する事が

教授会で話題になり、「橘」、文化勲章に似たものに決まり、使用されていきました。文化の香りが図書館にあるということで、事務員の一人の案が採用されていたのです。

学生の文化祭も、「橘祭」と称していました。また、学生委員会で学内新聞を刊行していましたが、昭和四十八年夏に「たちばな」と改題したのも、この校章の意をとりいれたものです。

さて、下馬の校庭には、夏蜜柑の樹が数本ありました。橘ではありません。短大移転以前からのものでした。学芸大附属高校、あるいは師範学校附属小学校時代からのものでしょう。

筑波移転の際、故小野泰博先生の発案で、記念樹として移植しました。玄関前の一本は、筑波の寒気でかれましたが、中庭のは寒気から守られているようです。

ついでに、大正時代の図書館講習所の同窓会は「芸艸會」と称しています。芸艸(うんそう)は、書籍から紙魚(しみ)を予防する薬草です。「芸(うん)」は「藝」の略字ではなく、本字です。先輩の博学に感心します。

以上、風説を正すためにしたためました。よろしく。

六月十日 黒岩 高明

第4回総会の記録

日時 平成 19 年 7 月 7 日(土) 13 時~14 時

会場 日本図書館協会 2 階 研修室

出席者 理事 11 名, 監事 2 名, 会員 12 名,
来賓 1 名

配付資料

- (1) 第 4 回総会次第
- (2) 平成 18 年度事業報告(案)・
平成 19 年度事業計画(案)
- (3) 平成 18 年度決算(案)
一般会計
特別会計: 筑波大学支援図書館情報学振興基金
大学史刊行支援会
- (4) 平成 19 年度予算(案)
- (5) 会員及び会費等取り扱い(理事会申し合わせ)
- (6) 役員等名簿 平成 19 年度
- (7) 筑波大学 平成 19 年度大学案内

総会次第

- (1) 開会の辞(遠藤茂樹副会長)
- (2) 会長挨拶(高鷲忠美会長)
- (3) 来賓紹介
来賓として筑波大学情報学群知識情報・図書館
学類長の石井啓豊教授が紹介され、石井啓豊学
類長より挨拶とともに、平成 19 年 4 月の筑波
大学情報学群発足と今後の見通しなど、大学と
同窓生の近況について説明があった。
- (4) 議長選出
会則第 19 条により、高鷲忠美会長を本総会議
長として選出し、議長挨拶が述べられた。
- (4) 議事録署名者の指名
議事録署名者 2 名が提案・了承された。
- (5) 議事
1) 平成 18 年度事業報告(城谷浩理事)
筑波大学行事への参加
第 3 回総会の開催
公開講演会の開催
会報第 4 号の発行

同窓会ホームページのコンテンツの充実
卒業生の勧誘
「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の設置
茗溪会本部行事参加など
その他

- 2) 平成 18 年度決算報告・同監査報告
鈴木宏子理事より平成 18 年度決算報告が行わ
れた後、石山洋監事より、監査報告があった。
以上の平成 18 年度事業報告および決算報告に
ついて、拍手多数により承認された。
- 3) 平成 19 年度事業計画(案)(城谷浩理事)
会員の一層の充実
ホームページを活用した同窓会活動の充実
会報の発行
公開講座の開催
各年幹事(連絡担当)の充実
その他
- 4) 平成 19 年度予算(案)
鈴木宏子理事より、平成 19 年度予算案につい
て、説明があった。
以上の平成 19 年度事業計画案・予算案につい
て、拍手多数により承認された。
- 5) 会員及び会費等取り扱いについて
森茜副会長より、会員及び会費等取り扱いにつ
いての理事会申し合わせが説明された。
また、平成 19 年 3 月 31 日現在の会員数が 1573
人(うち会費完納者 667 人)であること、夏ま
でに会員名簿を整理し、会費請求と現状報告を
行う予定であると説明があった。
- 6) 役員等の紹介
寺沢副会長から「図書館情報学橋会役員等名
簿」に基づき第 2 期役員(平成 18 年度選出、
任期は平成 20 年 7 月 31 日まで)の報告があっ
た。また、役員の辞退があったことなどから、
今後状況に応じて理事会の承認の下に役員の
補充・増員を行う可能性がある旨、説明があり、
拍手多数により承認された。

公開講演会 好評のうちに 開催される

橘会では、昨年から公開講演会を開催しています。公開講演会は、社団法人茗溪会支部の公益事業として、会員以外の方にも広く参加を呼びかけて行う講演会です。これまでに、昨年と今年の総会開催にあわせて2回開催しました。ともに、図書館や情報サービスの世界への問題提起や新しい方向性の示唆に富んだ、実りの多い講演会となりました。公開講演会は今後も続けていきます。ご希望のテーマ・講師がありましたら、ぜひお寄せ下さい。

第1回 公開講演会

演題：「新しい形の図書館 六本木ライブラリー」

講師：^{こばやし まみ}小林麻実氏

(六本木ライブラリー ディレクター)

開催日時：平成 18 年 7 月 8 日(土)

14：30～15:30

小林麻実さんはナレッジマネジメントがご専門。米国ユナイテッド・テクノロジーズ社での世界 15 万人のヴァーチャルライブラリーを推進した経験などから、2002 年現職に就任されました。

六本木ライブラリーは、時代の先端の地・六本木ヒルズの 49 階にあり、自立した個人が最新の書籍や情報を入手し、ネットワークを築いていくための「場」と位置づけています。有料会員制、年中無休・7 時～24 時開館、貸出・複写サービスは行わず会員が蔵書を購入可能、会話自由、飲食のためのカフェ設置、会議スペース、セミナー開催、とその運営は、資料の保存と貸出を主とするこれまでの図書館とは大きく異なるものです。

「そもそもライブラリーとは何か」の問いから始まり、世界のどこにもない空間を創り上げ、定着させるまでの困難、現状と展望が語られた講演は、図書館サービスを考える上で大きな刺激となるものでした。

第2回 公開講演会

演題：「図書館活動への市民参加」

講師：^{よだか ずこ}依田和子氏

(よこはまライブラリーフレンド代表)

開催日時：平成 19 年 7 月 7 日(土)

14：30～15:30

依田和子さんは利用者の立場からの図書館への市民参加活動を続けてこられました。「よこはまライブラリーフレンド」代表。また日本図書館協会児童青少年委員会委員、IFLA 児童青少年分科会常任委員を務めておられます。

よこはまライブラリーフレンドは、1995 年発足。公立図書館の役割と司書の専門性を広く市民に知らせるべく、年 3 回の会報発行、図書館見学会、利用セミナー、読書会などの活動を続けています。

講演では、これまでの活動、文庫活動・ボランティア活動などさまざまな形の市民参加、アメリカのライブラリーフレンドの事例などについて話されました。また、市民が資料にアプローチする困難さを知って欲しい、職員の外部委託でレファレンス能力が低下するのでは利用者のための合理化にならない、といった利用者の立場からの図書館への問題提起、参加者との活発な議論もなされ、有意義な時間となりました。

社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日 1 - 2

E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行：2007 年 11 月 6 日